

第3章 文化的景観地域における課題の整理と目標像

3-1 集落の現状と課題

計画対象地域の現状を、SWOT分析をベースに集落の内部・外部環境に分け、その強みと弱みから今後集落が取るべきと考えられる方向性を整理した。(表7)

地域においては、豊かな自然や食、景観を有することが強みである一方、少子高齢化に伴う地域コミュニティの衰退や人材育成などが課題となっている。また、重要文化的景観の選定や「長崎の教会群」の構成資産に選ばれたことをきっかけに、地域外部から様々な影響を受けつつある状況である。それら地域内部環境と地域外部から受ける様々な影響をマトリクスで整理すると、様々な『交流』のあり方を模索すること、そして景観や食など地域資源の保存・保全と活用を行うことが地域の持続的発展には有効であることが分かる。

表7の各項目の交差部をそのまま抜き出したものが(1)、それをカテゴリで再整理したものが(2)である。

(1) SWOT分析の整理

①地域における最大の機会を逃さないために必要なこと

- ・観光客の要求とマッチする地域資源を背景に、増加する交流人口を対象とした取り組みの推進
- ・地域における戦略的な宝探し(地域資源を発掘や再確認、情報発信)の取り組み
- ・将来的な、農家民泊、農家カフェなどの取り組みや、同施設による地産地消を推進する。
- ・地域間(市内外)における相互交流の推進
- ・集落内における情報の共有

②地域の弱みを改善するために必要なこと

- ・農業、観光、文化などに関わる人たちの組織化や住民自治の推進(地域内交流の推進)
- ・文化的景観や世界遺産の取り組みを通じた勉強会の継続
- ・収益事業(イベントなど)の実施や物販(高付加価値農業、6次産業化など)の推進
- ・地域資源を生かした持続可能な地域活性化の推進

③今後起こりうる脅威を回避するために必要なこと

- ・食、景観、生産者の関連が読み取れる仕組みづくり
- ・安全安心ほか、質の高い生産活動の実施
- ・食のイメージを形成する景観の保存・保全の推進
- ・文化的伝統の継承と情報発信の方法検討
- ・地域において定めるまちづくり目標像に向かう取り組みを行政がサポートできる仕組みづくり
- ・ガイドラインによる外部資本のコントロール

④地域における最大の脅威とは何か

- ・過疎の進行、地域コミュニティの更なる衰退
- ・各地域の勉強不足、連携不足により、地域間交流をきっかけとした事業展開が望めない。
- ・行政の連携不足により、各種事業が単発で終わり、効果的な事業成果をあげることができない。
- ・外部資本による直売所や宿泊施設の建設などにより、地元にお金が落ちない。

(2) 前項をカテゴリ毎に再整理

①交流に関すること

- ・観光客の要求とマッチする地域資源を背景に、増加する交流人口を対象とした取り組みの推進
- ・将来的な、農家民泊、農家カフェなどの取り組みや、同施設による地産地消を推進する。
- ・集落内における情報の共有

②地域コミュニティに関すること

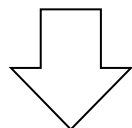
- ・地域間（市内外）における相互交流の推進
- ・農業、観光、文化などに関わる人たちの組織化や住民自治の推進（地域内交流の推進）
- ・文化的景観や世界遺産の取り組みを通じた勉強会の継続
- ・文化的伝統の継承と情報発信の方法検討

③地域資源に関すること

- ・地域における戦略的な宝探し（地域資源を発掘や再確認、情報発信）の取り組み
- ・地域資源を生かした持続可能な地域活性化の推進
- ・食、景観、生産者の関連が読み取れる仕組みづくり
- ・安心安全ほか、質の高い生産活動の実施
- ・食のイメージを形成する景観の保存・保全の実施

④その他

- ・収益事業（イベントなど）の実施や物販（高付加価値農業、6次産業化など）の推進
- ・地域において定めるまちづくり目標像に向かう取り組みを行政がサポートできる仕組みづくり
- ・ガイドラインによる外部資本のコントロール



「交流」をキーワードにした取り組みの推進

- ①文化的・自然的価値の持続的活用
- ②域外を対象とした交流の推進
- ③地域コミュニティの再生

表7 集落の内部環境と外部環境の関わり

| | | | | |
|--|------------------|---|--|--|
| <p>＜表の見かた＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内部環境の強みと、地域外部環境の（良い）機会が交わるところが、地域にとって最大の機会となる。 ※最大の機会＝地域の強みを生かすためにできること。外部からの好影響を自分の強みで逃がさないために必要なこと ・同様に、内部の弱みと外部の機会が交わるところが弱点改善となる。 ※弱点改善＝地域の弱みを外部からの好影響で改善するために必要なこと ・内部の強みと外部の脅威が交わるところが、脅威回避となる。 ※脅威回避＝外部から受ける悪影響を地域の強みで回避するためにできること | | <p>地域内部環境</p> | | |
| | | <p>強み</p> | <p>弱み</p> | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ◆地域には、様々な文化的伝統が継承されるほか、豊かな自然（生産環境）や食（食材）がある。 ◆生産活動に直結する特徴ある景観がある。 ◆文化的景観の取り組みを通じて、まちづくりグループが設置され、議論が継続できる場が持てるようになった。 ◆小規模なコミュニティのため、意思決定が早い場合が多い。 ◆基本的なガイドラインは策定済み。 <p style="text-align: right;">Strength</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆少子高齢化及び人口減少、地域コミュニティの衰退 ◆まちづくりに関するノウハウがなく、それらを勉強する機会も少ないため、町の将来像が明確に描けない。 ◆地域リーダーが育っていない。日々の仕事に追われ、まちづくり活動に十分な時間を割ける余裕がない。 ◆まちづくり補助を活用する際に必要な地元負担金を捻出できない。 <p style="text-align: right;">Weakness</p> | |
| <p>地域外部環境</p> | <p>機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆重要文化的景観に選定された地域の一部は、世界遺産の候補としても検討されており、その文化的価値が高まっている。 ◆文化的景観や世界遺産の取り組みを通じて普及啓発の頻度やチャンスが増加した。 ◆イベントなどの実施による交流人口の増加 ◆関連地域におけるまちづくりグループの設置 ◆自然や文化・歴史に触れたいという旅行者のニーズが多い。 <p style="text-align: right;">Opportunity</p> | <p style="text-align: center;">最大の機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆観光客の要求とマッチする地域資源を背景に、増加する交流人口を対象とした取り組みの推進 ◆地域における戦略的な宝探し（地域資源の発掘や再確認、情報発信）の取り組み ◆将来的な、農家民泊、農家カフェなどの取り組みや、同施設による地産地消を推進する。 ◆地域間（市内外）における相互交流の推進 ◆集落内における情報の共有 | <p style="text-align: center;">弱点改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農業、観光、文化などに関わる人たちの組織化や住民自治の推進（地域内交流の推進） ◆文化的景観や世界遺産の取り組みを通じた勉強会の継続 ◆収益事業（イベントなど）の実施や物販（高付加価値農業、6次産業化など）の推進 ◆地域資源を生かした持続可能な地域活性化の推進 |
| | <p>脅威</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆他の農山漁村集落との差別化が図りにくい。 ◆観光客が、集落での観光の仕方が分からない。 ◆国内食品マーケットや農業産出額の低下 ◆外部資本による無秩序な開発の可能性 ◆行政内部において計画対象地域の位置づけが明確になっていない。 ◆行政内部の連携が弱く、総合施策を組めないために、各事業が単発で終わることが多い。 <p style="text-align: right;">Threat</p> | <p style="text-align: center;">脅威回避</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆食、景観、生産者の関連が読み取れる仕組みづくり ◆安全安心ほか、質の高い生産活動の実施 ◆食のイメージを形成する景観の保存・保全の推進 ◆文化的伝統の継承と情報発信の方法検討 ◆地域において定めるまちづくり目標像に向かう取り組みを行政がサポートできる仕組みづくり ◆ガイドラインによる外部資本のコントロール | <p style="text-align: center;">最大の脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆過疎の進行、地域コミュニティの更なる衰退 ◆各地域の勉強不足、連携不足により、地域間交流をきっかけとした事業展開が望めない。 ◆行政の連携不足により、各種事業が単発で終わり、効果的な事業成果をあげることができない。 ◆外部資本による直売所や宿泊施設の建設などにより、地元にお金が落ちない。 |

※集落における「まちづくり」は、単一の視点では成し遂げることができず、人材育成、景観や文化的伝統の保存・保全と継承、農作物や海産物など生産環境の質の向上、ツーリズムの実施など、より複合的な取り組みが求められていることが分かる。

3-2 文化的景観地域の目標像

集落の価値分析（第2章2-2-4）から明らかになった『文化的伝統を表象する景観』と、集落の課題整理（第3章3-1）から抽出された『交流』というキーワードから、計画対象地域の目標を以下のように定める。

キリシタン文化を基層とする地域の文化的伝統と景観を生かした『交流』を核としたまちづくり。

～エコツーリズムの推進により、以下の新しい形を構築する。～

新しい「たび」の形、新しい「景観の保存・保全の形」、新しい「地域運営」の形、
新しい「経済循環」の形

計画対象集落は、16世紀の東西文化交流を起因として生まれた文化的伝統が色濃く残る地域である。地域においては、16世紀の「交流」によって生まれたそれらの文化的価値を核にまちづくりを推進しようとする動きがある。

「地域内の世代間を越えた交流による地域コミュニティの復活」、「都市住民との交流を中心としたエコツーリズムの実施による地域活性化」、「重要文化的景観に選定された他地区住民との交流と連携」など、本地域において『交流』というキーワードは今後のまちづくりにおいて重要な位置を占める。

また、本地域は、16世紀の西洋文化との交流、その後の漁業を中心に栄えた生月島との交流などにより、棚田や牧野などの生業空間のほか、信仰空間としての山や森、島、伝承地など、象徴的な場所が形成されており、その文化的価値が注目されている。

今後の持続的な地域発展のために、本計画と関連する計画（平戸市総合計画、平戸市景観計画、平戸市観光振興の指針など）との位置づけを明確にし、文化財保護法に規定される重要文化的景観として適切な集落の保存・保全を図りつつ、併せて地域主体（住民が主役）のまちづくりを推進する必要がある。

集落景観は、“活用することで、より確実に守られる”との観点から、地域資源を生かしたまちづくりと景観の保存・保全の取り組みをリンクさせることにより、文化的景観地域における新たな景観保存・保全の手法を確立させる。より具体的には、地域資源の活用を前面に押し出し、地域における小さな循環型文化観光のシステムを作る。また、来訪者へ資源管理に関わってもらう仕組みを作ることも重要である。地域住民主体による持続可能な景観形成の手法を模索すること、それは、地域における各種課題を解決し、現在の多様な集落景観の保存・保全と発展を図ることにつながると考えられる。（図30）

地域においては、まちづくりグループのリーダーなどが中心となり、景観の保存・保全と地域振興の中心的な役割を担うことになるため、継続した人材育成の取り組みが必要である。

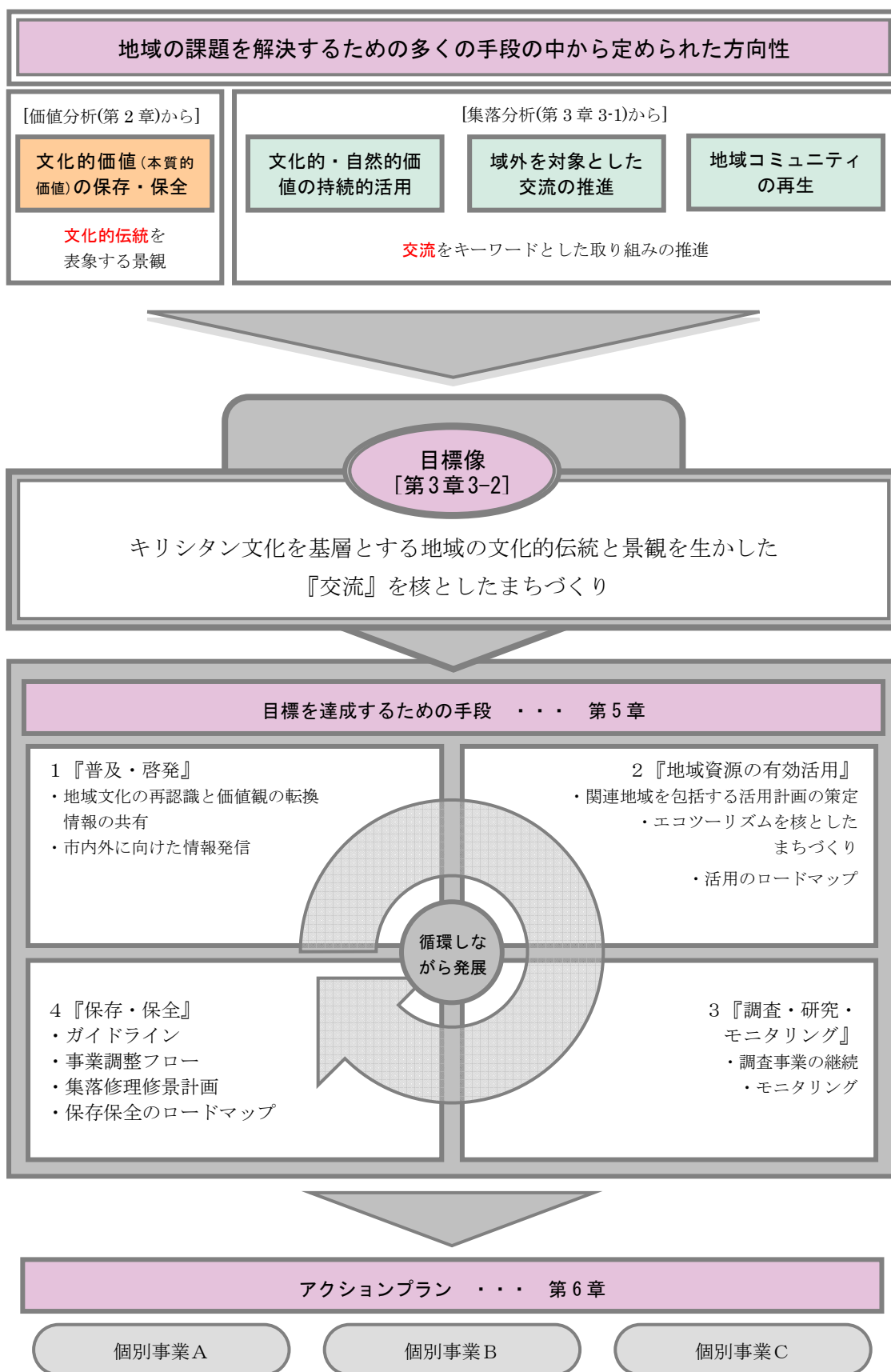


図30 地域目標の設定と計画の展開